FREE
ご自由に お持ちください。

No.809
2021 February
2

岐阜県の森林・林業

森林（もり）のたより

News of the forest

「ぎふ木育交流会2020」を開催しました





令和2年度「ぎふ 森のようちえんアワード」表彰式



基調講演



パネルディスカッション

●詳細は5ページをご覧下さい

編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会
E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp
http://www.g-forestry.or.jp （公社）岐阜県山林協会の情報をご覧いただけます。

森林・林業関係イベントカレンダー（2月）

一般向け

開催日	行事名等	内　容　等 （概要、定員、受講料、申込期限など）	場　所 申込（問合せ）先／TEL
2月17日㈬	**令和２年度 岐阜県治山林道 技術成果発表会**	岐阜県内の治山林道事業に携わる技術者が、日頃の研究成果を発表します。	リモート開催 森林整備課：058-272-8491 治山課：058-272-8526



目次 Contents

イベントカレンダー（一般向け）……2
100年先の森林づくりシリーズ18……3
令和2年度岐阜県地域森林監理士の活動状況について……3
山の歳時記(186) サカキⅡ……4
「ぎふ木育交流会2020」を開催しました……5
岐阜県伐木安全技術評価会を開催しました……6
morinosプログラム紹介!!……7
シリーズ:『森林・環境税』で"緑豊かな清流の国ぎふづくり"!!(10)……8
「令和2年度全国治山・林道コンクール」「令和2年度山地災害防止標語及び写真コンクール」の表彰……9
山のおじゃまむし(355) ―死番虫、シバンムシ―……10
森林と人を活かす知恵(97) 森林文化アカデミーでのスギ・ヒノキ以外の樹種の苗づくり……11
木の香るぎふの施設(95) 中津川市立坂本こども園……12
研究コーナー コウヨウザン植栽の注意点……13
普及コーナー 下呂地域における林業普及活動……14
スマート林業通信(8) 林業デジタル化推進研修会を開催……15
国有林の現場から(52) こんなところにも国有林2……16
岐阜県の名桜樹について～養成と無償配付～……17
林業者向けお知らせ……17
市況……18



表紙●「ぎふ木育交流会2020」を開催しました

100年先の森林づくりシリーズ18

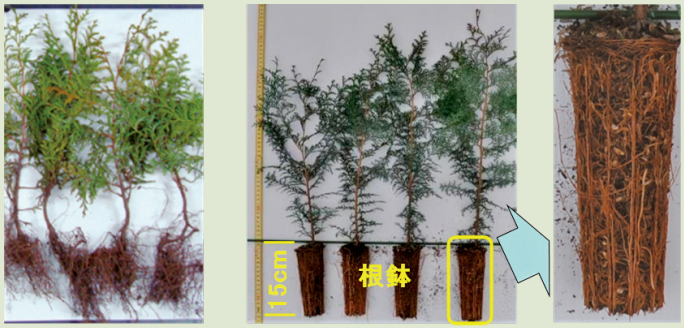
第３期岐阜県森林づくり基本計画(H29～H33)では、望ましい森林の姿へ配置転換する「１００年先の森林づくり」、林業経営を重視した「生きた森林づくり」、環境保全を重視した「恵みの森林づくり」に取り組んでいます。これらの取組状況について、隔月連載でご紹介します。

◆１００年の森林づくり計画実践プロジェクト

初期成長に優れたヒノキコンテナ苗の育成技術開発と苗生産者への技術移転

岐阜県の人工林は、本格的な利用期を迎えています。今後、計画的な伐採･再造林を行うことで、将来も安定した木材生産を行うことができます。そのためには、再造林コストの低減が必要です。従来の裸苗（図１(a)）に比較して植え傷みが小さいコンテナ苗（図１(b)）は、初期成長の促進による下刈り回数の削減と、これに伴う再造林コストの低減を期待して海外から導入されました。しかし、植栽後の検証が進むにしたがって、コンテナ苗と裸苗の初期成長に差が無いことがわかってきました。そこで、岐阜県で最も造林面積が広いヒノキを対象に技術開発を行い、苗育成時の元肥に育苗期間より溶出日数（肥効）の長い肥料を用いることで、現状より植栽後の初期成長が優れることを明らかにしました。

岐阜県森林研究所では、ヒノキコンテナ苗をはじめて育成される方や現状より優れたものに育成したい方、並びに造林される方を対象にした技術指針書（図２、岐阜県森林研究所ホームページ(http://www.forest.rd.pref.gifu.lg.jp/)より入手可能）をまとめるとともに、岐阜県山林種苗協同組合に所属する生産者の方々を中心に技術移転を行いました。これにより、現在では岐阜県で生産されるヒノキコンテナ苗の多くに、植栽後の成長を考慮した肥効の長い肥料が入っています。



(a)裸苗　　(b)コンテナ苗

図１　裸苗とコンテナ苗



図２　技術指針書

●詳しい内容を知りたい方は TEL0575−33−2585 岐阜県森林研究所森林環境部まで

令和２年度岐阜県地域森林監理士の活動状況について

岐阜県では現在、「第３期岐阜県森林づくり基本計画」に基づき、地域が主体となった１００年先を見据えた森林づくりに取り組んでいます。

この取り組みを推進するため、県では地域における森林の管理及び経営に必要な専門的知識を有し、市町村林務行政への支援や民有林経営への助言等を行う「岐阜県地域森林監理士」を養成･認定しています。

現在、岐阜県地域森林監理士は１８名が認定されております。令和２年度の活動内容の概要を以下に示しますので、岐阜県地域森林監理士の活用をご検討ください。

活動先	活動内容
岐阜県	森林経営管理制度におけるマニュアル作成、市町村職員研修など
市町村	森林経営管理制度関係業務（意向調査、集積計画、境界明確化等）、森林施業プランの作成、森林整備のための協議会・集約化会議等、林地台帳関係業務、市町村森林整備計画・森林経営計画関係業務、市町村有林の管理、伐採・造林の指導など
民間事業体等	業務マニュアルの作成、里山林の整備・管理業務、現場での進捗管理の仕組み構築、森林経営計画の策定・実行監理、伐採・造林・路網整備等の指導など

今後も市町村等の要望に応えられるよう、引き続き岐阜県地域森林監理士を養成･認定していきます。

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線(3027)　林政課 100年の森づくり推進室 森林企画係まで

山の歳時記 186

YAMA NO SAIJIKI

サカキⅡ

文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

前回に引き続き、サカキの話をさせていただきます。

ずいぶん前、郡上市美並町の古川秀樹さんとお正月に飾るサカキについて話をしていたとき、「わが家の山に大きなサカキがありますよ」と教えていただきました。

そこで後日、古川さんの案内で山の中にあるサカキの古木を見に行くと、筆舌し難い巨木を前に、発する言葉が見つかりませんでした。

古川家は江戸時代から植林し、山を管理されてきた林業を生業にされ、私が目にしたサカキは目通り周囲が175㎝、樹高約9・0mもの大木だったのです。

岐阜県で最も大きいサカキは、不破郡垂井町栗原山中腹にある「栗原連理のサカキ（県指定天然記念物）」で、目通り3・4m、推定樹齢400年とされます。このサカキは地上0・4mのところから幹が2本に分かれ、太い方の幹は周囲2・2m、細い方は0・95mで、地上約1mのところから5つの幹に分かれ、幹や枝がいたるところで絡んで合体しています。一説には「ここを訪れた男女が枝をからませておくと、自然に枝がつながるころには縁が結ばれる」とされ、別名「縁結びのサカキ」と呼ばれています。

ちなみに「連理」とは、一本の木の枝が他の木の枝につながるものですが、この他にも夫婦や男女の仲がきわめて親密なことの例えにも使われます。中国の唐代では、楊貴妃が玄宗皇帝を愛し、「私たち二人は連理の木になりたい」と言ったと、長恨歌に歌われたことに由来するとも言われています。

平安末期の西行法師は「さかき葉に　心をかけん　ゆふ（木綿）しでて　おもへば神も　ほとけ成けり」と、日本人の根底にあった神仏習合の考えを詠んでいます。

わが家でも、ことある毎に神棚のサカキの枝と紙垂（しで）を取り替えますが、昔は枝の取り替えは月に二度、江戸時代までは旧暦の1日と15日に取り替える習わしがありました。

サカキは神籬として神事に用いられるだけでなく、奈良県十津川村では「山にサカキの杖を持って行くとヘビ除けになり、サカキの杖でヘビを触ると色が変わる」と言われ、鹿児島県屋久島では「サカキの枝葉は魔除けになる。病気治療に効く」といった俗信があったそうです。

さて、冒頭の古川さんとの話の中で、「サカキの材は強靱、堅硬で農機具や杵、天秤棒、舟の棹（さお）に用いたほか、昔は床柱や桁材などにも利用されたらしいです」とお話ししていると、「実は、うちの家屋の桁にもサカキの大木が使われていたそうです」と、これまた驚愕のお話をお聞きしたのです。

サカキの大木を前に、どうかこの大木が後世に残ることを願いつつ現場を後にしたのです。



▲古川さんの所有山林で見たサカキ大木

「ぎふ木育交流会2020」を開催しました

県では、「ぎふ木育」として、森林との関わりから未来を担う人材を育成する取組みを進めており、その一環として、自然の中で子育てに取り組む活動を支援しています。

このたび、県内で森林空間を活用した自然保育等を積極的に展開する団体・個人を表彰するとともに、実践者として身につけておきたい知識や技術を習得し、実践者同士の交流を図ることを目的に、令和2年12月5日（土）に岐阜県立森林文化アカデミーにおいて「ぎふ木育交流会2020」を開催しました。

なお、交流会の様子は「ぎふ　森遊びと育ちネットワーク」公式YouTubeチャンネルにてライブ配信を行い、現在も同チャンネルにて視聴することができます。

交流会の様子

令和2年度「ぎふ 森のようちえんアワード」表彰式

県内で森林空間を活用した自然保育等を積極的に取り組む下記3団体を表彰し、活動紹介を行いました。



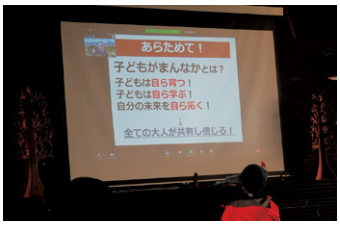


受賞者（五十音順）
（一社）ぎふホースセラピー子育てラボ（本巣市）
さくらキンダーガーデン（本巣市）
関市立保育園（関市）

竹内 延彦 氏（長野県池田町教育長）による基調講演 ※オンライン講演

テーマ：「子どもがまんなかの遊びと学び～過不足なく関わる大人の存在～」





自然保育を通じて、幼児期に豊かな土壌を培い、成長を支える「根っこ」を作る事の重要性などをご講演いただきました。

パネルディスカッション

テーマ：「子どもの幸せ」を育む「新たな森と人との関わり」





自然保育の実践者や有識者4名によるパネルディスカッションが行われ、自身の体験事例などをもとに、活発な議論が展開されました。

主催：岐阜県

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線(3035) 恵みの森づくり推進課木育推進係まで　木育のいっぽ　検索

岐阜県伐木安全技術評価会を開催しました



去る11月21日(土)、美濃市曽代の運動公園「台山ヒロック」において「岐阜県伐木安全技術評価会」が開催されました。

この評価会は、森林技術者の方々のチェーンソー操作技術の向上と安全作業の再認識を目的としています。県内の森林組合、林業会社、森林文化アカデミーの学生の中から応募のあった総勢20名の方々により、新規就業者(経験年数3年未満)と中堅技術者(同概ね10年以上)の2部門に分かれて競技を行いました。

競技の内容は、日本伐木チャンピオンシップ(以下、「JLC」)の公式ルールに準じて、「①伐倒競技」「②丸太合せ輪切り競技」「③枝払い競技」の3種目(新規就業者は①②の2種目)を行い、その総合得点で順位を競うものです。

今回、高い技術と安全作業のポイントを学ぶため、昨年のJLC鳥取大会優勝者の「今井陽樹(いまいひのき)」さんを講師としてお招きしました。



①伐倒競技



②丸太合せ輪切り競技

今井さんには、各競技内容の解説と併せて、日本トップレベルの正確かつ素早い華麗なデモンストレーションをご披露いただき、参加者一同を魅了していました。



③枝払い競技

また、競技スタッフとして、(一社)岐阜県森林施業協会青年部会員の皆さんや、森林文化アカデミー学生の皆さんからも協力をいただき、さらに鳥取県林業担い手育成財団からもJLC審判資格を有する3名の方々を派遣いただくことで、厳正な審査の下で競技が行われました。競技の結果は次のとおりです。

【新規就業者の部】
・優勝：山口祥平
[岐阜県森林組合連合会]
・二位：平岩直人
[森林文化アカデミー]
・三位：佐村隼人[(有)根尾開発]

【中堅技術者の部】
・優勝：鈴木康範[(株)岐阜緑地]
・二位：小山元嗣
[岐阜県森林組合連合会]
・三位：谷口隆志[郡上森林組合]

また、会場内には、チェーンソーメーカーによる最新の安全装備品や伐倒作業が再現されるVR体験コーナーなども併設展示されました。





第一線の現場で活躍する森林技術者の皆さんの真剣勝負により、大会が大いに盛り上がり技術者同士の交流にも繋がりました。また、参加選手の方々からは、「自分の技術レベルが確認できた」「来年もぜひ参加したい」といった感想をいただきました。

今後も同評価会を継続することで、林業労働安全に対する意識と技術レベルの向上に繋げていきます。



競技出場選手の皆さん

◀こちらからダイジェスト版の動画がご覧いただけます。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 058-272-8491
森林整備課担い手企画係まで

やがてみんなの森になる

morinos

プログラム紹介！！

morinosでは、子どものためのプログラム、大人のためのプログラムのほか、多くの団体と連携し、指導者の育成に関わるプログラムにも力を入れています。

ご紹介するのは、見る・聞く・触るなどの様々な五感を使って、自然とふれあうプログラム「ネイチャーゲーム」の指導者育成です。岐阜県シェアリングネイチャー協会と連携して実施しました。

ネイチャーゲームとは、自然に関する特別な知識がなくても、豊かな自然の持つさまざまな表情を楽しめる自然体験活動で、大人も子どもも自然を感じ、自然の不思議や仕組みを学び、自分が自然の一部であることに気づくことができるようにするもので、環境教育、野外活動、保育・教育の現場、日常の暮らしの中など、多くの場面で活用されています。

今回は、岐阜県シェアリングネイチャー協会が令和2年の夏から秋まで、岐阜県内各地（6会場）において分散開催した内容を、それぞれの地域で中心的な活動を担ってくれたリーダーから、活動報告をするとともに、指導者どおしのつながりを深める機会となりました。また、morinosと連携することで、自然を楽しむための技術である「ネイチャーゲーム」に、森林の生態や樹木・キノコなどの知識を加え、指導者自身が楽しむとともに、より深く森林を理解することを目指しました。

今回は中津川市、恵那市、土岐市、笠松町、岐阜市、岐南町、大垣市、美濃加茂市、関市、美濃市からの参加者15名と、オンラインによるリモートで5名が参加しました。



▲指導者研修　ぎふネイチャーゲーム
自然教室報告会の様子



▲報告された活動の様子
（落ち葉のベッドを楽しむ子どもたち）　（自然を切り取って楽しむ参加者）

県内各地で実施した内容の発表では、コロナ対策の中、家族ごとにゲームを行い、本来の目的である自然を感じ、楽しむことができたことや、葉っぱを集めるいくつかのゲームを通して公園の落ち葉掃除をしたことなど、様々な工夫が凝らされたネイチャーゲームについて、報告されました。

報告をもとに、参加者同士で実施内容の感想を話し、さらに良い内容のネイチャーゲームについては、実際に森の中で実践し、さらに深く振り返ることができました。



▲目隠しで葉や幹に触り、
感覚でどんな樹木か想像をめぐらす



▼集合写真
（この時だけマスクを取りました）

morinosでは、様々なプログラムを準備して、多くの皆様のお越しをお待ちしております。興味を持ってくださった方は、morinosのホームページ、動画YOU TUBEをご覧ください。　（森林文化アカデミー森林総合教育センター（morinos）　鈴木知之）

ホームページ　https://morinos.net
YOU TUBE　検索「morinosチャンネル」
開所時間　10:00～16:00
定休日　毎週火･水曜日

シリーズ

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

10

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取組みを行っています。こうした取組みの内容について連載で紹介します。

清流の国ぎふ市町村提案事業　～地域の実情に合わせた提案型事業～

清流の国ぎふ市町村提案事業は、清流の国ぎふ森林・環境税の趣旨に則り、地域住民の意向や地域の実情に精通している市町村が特に必要と考える事業を実施するものです。平成24年度からの８年間に、41市町村、延べ412事業が実施されました。

令和２年度は16市町の16事業が採択され、特色のある事業が実施されています。

■中山道琵琶峠周辺森林環境整備事業（瑞浪市）

【事業目的】

国史跡の中山道琵琶峠は来訪者が急増しているが、近年の台風襲来により倒木が多発しているほか、雑木が繁茂しており、森林所有者による森林環境の保全が困難となっている。そのため、不用木・危険木の除去による森林の適正管理と安全確保や、住民協働による東屋の設置等を実施するもの。

【事業内容】

●不用木・危険木の除去：８.5ha
●東屋の設置：１棟
●看板の設置：１基
●森林体験教室参加者：12組（家族）

【令和2年度事業の実施状況】

不用木・危険木の除去や東屋の設置等を実施したほか、親子を対象とした森林体験教室を開催し、枝打ち体験、伐倒見学、間伐材を利用した鳥の巣箱の作成、設置を実施。



中山道琵琶峠周辺森林環境整備事業
（住民参加による東屋の設置状況）



中山道琵琶峠周辺森林環境整備事業
（完成した東屋）

■たじみエコカレッジ運営事業（多治見市）

【事業目的】

ふるさとの美しい森づくり・川づくりを担う人材を継続的に育成することを目的とし、対象年代ごとに市民向けの環境学習講座を通年開催するもの。

【事業内容】

●ジュニアコース（市内の小学４～６年生、全６回）
：定員15人
●ユースコース（市内在住・在学の中高生、全４回）
：定員15人
●自然マイスターコース（市内在住・在勤者、全６回）
：定員15人

※内容により、定員は変動がある場合があります。

【令和2年度事業の実施状況】

ジュニアコース、ユースコース、自然マイスターコースにはそれぞれに15人の参加があり、講座を実施中。



たじみエコカレッジ運営事業
（ジュニアコース実施状況）

【恵みの森づくり推進課】　●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8472 清流の国ぎふ森林･環境税活用サポート窓口まで

「令和2年度全国治山・林道コンクール」「令和2年度山地災害防止標語及び写真コンクール」の表彰

令和2年度（一社）日本治山治水協会及び日本林道協会主催の「治山・林道コンクールの各部門」と（一社）日本治山治水協会主催の「山地災害防止写真コンクール」の岐阜県の受賞者は次のとおりです。おめでとうございました。（敬称略）

第36回民有林治山・林道工事コンクール
日本治山治水協会長賞
復旧治山事業　深沢地区工事
乙姫建設株式会社　土屋 和樹

日本林道協会長賞
地方創生道整備推進交付金事業
林道白尾～鷲見線（4－2工区）
開設工事
株式会社　前田土木　前田 守廣

第44回林道維持管理コンクール
農林大臣賞
林道　大杉線
郡上市長　日置 敏明

第21回民有林治山木材使用工事コンクール
（一社）日本治山治水協会長賞
公共緊急予防治山事業
寺洞地区工事
下呂農林事務所　榎田 俊治

第21回民有林林道木材使用工事コンクール
日本林道協会長賞
地方創生道整備推進交付金事業
林道白尾～鷲見線（3工区）
開設工事
郡上農林事務所　林務課
【山林協会　瀬上　繁隆】


復旧治山事業　深沢地区工事


地方創生道整備推進交付金事業
林道白尾～鷲見線（4－2工区）



林道　大杉線


公共緊急予防治山事業　寺洞地区


地方創生道整備推進交付金事業
林道白尾～鷲見線（3工区）



山のおじゃまむし

―死番虫、シバンムシー【第355回】

自然学総合研究所　野平 照雄 ● *Teruo Nohira*

シバンムシ。漢字で書けば「死番虫」。不気味な虫に思えるが、どんな虫なのだろうか。今回はこの虫の話。シバンムシは、甲虫目シバンムシ科の仲間で日本には60数種が生息している。しかし、よく見られるのは10数種ほど。これらはともに4㎜前後と小さく、家の中や庭先などで見られる。幼虫は、米ぬか、乾麺、煮干し、菓子類、油粕、唐辛子など乾いたものや、時には古い書籍やペットフードなども食べるという厄介な虫。昔から貯蔵食品の大害虫として知られている。この中で特に多いのがタバコシバンムシとジンサンシバンムシ。ともに年2回発生し、幼虫で冬を越す。しかも姿、形、大きさや加害方法もよく似ているので、種を見分けるには顕微鏡が必要だろう。しかし、私は肉眼だけで区別できるようになった。両種とも我が家に住みついていたため、何回も目にしていたからである。それが、今は度の強い老眼鏡がなければ見ることができない。その都度、眼鏡をかけたり外したり。実に面倒くさい。これは誰もがたどる道だとわかっているけど悲しくなる。私がこの虫を知ったのは30数年前。実家の物置の片隅に古ぼけた木箱があった。中にお経の本が入っていた。虫に食われてボロボロだった。そこに小さな虫がたくさんいた。初めて見る虫だったので調べた。ジンサンシバンムシであった。その数年後、同じ虫が自宅の軒先に吊るしておいたニンニクに発生した。「今度はニンニクに発生したのか」と思ったものの、食物が違うので念のため調べた。タバコシバンムシであった。それほどよく似ていたのである。その後、両種とも我が家の住人?となり、煮干し、乾燥椎茸、鰹節、お菓子で見られるようになった。ある時は雛人形にいたこともあった。しかし、虫嫌いの女房には言わなかった。大騒ぎして大変なことになることが分かっていたからである。幸い、女房はこの虫に気づくことなく料理をしていた。それが、最近これらの虫が家の中で見られなくなってきた。ひょっとしたら我が家にいるこの虫たちにも死の順番がきたのではないか。「死番虫」の3文字が目に浮かんできた。

×　×　×　×

それから数年後の2年前、突然タバコシバンムシが大発生した。場所は鯉の餌袋の中。小さな虫が動き回っていた。その数、無数。とにかくすごい数であった。私は10数年前から金魚を飼っている。初めは観賞用であったが、そのうちに卵を産ませて育てる累代飼育を始めた。それが3年前にアライグマに襲われ、半数以上が餌食になってしまった。餌（鯉用の大きな粒状）は、そのままにし、飼育容器を整備した。10か月後の6月、また金魚を飼おうとこの餌袋を開けた。驚いた。中からものすごい数のタバコシバンムシが出てきたのである。女房や娘は「気味が悪い。早く処分して」。しかし、孫たちは「たくさんいる」と声をあげて楽しそうに見ていた。餌には成虫が出てきたと思われる小さな穴がたくさん見られた。どれにも2～4個あり、中には7個もあるものがあった。餌の中には成虫、蛹、幼虫がいた。この餌を成虫と一緒にカップで掬って与えた。すると金魚は競うようにして成虫まで食べてしまった。この虫は年に2回の発生だ。しかし、大発生は秋まで続いた。もしや3回、いやそれ以上発生しているのではないか。そんな気がしてきた。この餌袋は8kg入りの大袋。すでに半分以上は使っているが、今までに何匹が成虫になっただろう。この数が気になってきた。何万、何十万、いやそれ以上だろうと思ったものの、見当すらつかなかった。結局、すごい数だというのが結論。



▲虫が出た後の無残な餌

×　×　×　×

餌を与える。水上には丸い粒の餌と褐色の小さな虫がたくさん浮いている。これを金魚は喜んで食べる。これを見ている時、ふと思った。餌の中にいる虫の成分は動物性たんぱく質。虫のいない餌とは違うはずだ。むしろ虫が入れば栄養分が増えるのでプラスではないか。私自身、医者から栄養が偏らないバランスのとれた食事にしなさいと言われているからである。屁理屈かもしれないが、多くの人はこの虫が大発生すると嫌な顔をしていたが、むしろ笑顔になるべきではないかとも思った。それに「死番虫」。なぜこの名前がついたのか。気になっていたので調べた。これはヨーロッパに生息しているある虫の習性からだった。この虫の成虫は頭を木材の柱に打ち付け音をだして、雄と雌とが交信している。しかし、虫の姿が見えないのに不気味な音が聞こえるだけ。これが死神の持っている時計の秒読みの音に似ているからだという。私にはよく理解できなかったが、それよりジンサンシバンムシという名前だ。これは煙草の枝葉に発生するのが理由らしいが、何故ジンサンシバンムシなのか。ニンジンシバンムシの方が分かるのではないかと思った。首をかしげているうちに、これは日本名を付けるとき人参（にんじん）を“じんさん”と読んで付けたのではないか。そんなことを思い浮かべたら笑えてきた。今、シバンムシは餌袋の中。春になれば再び大集団となって姿を現すであろう。それが楽しみだ。



森林と人を活かす知恵 97

森林文化アカデミーでのスギ・ヒノキ以外の樹種の苗づくり

岐阜県立森林文化アカデミー　准教授●玉木　一郎

私がアカデミーで担当している育苗の授業では、演習林に植栽するためのスギ・ヒノキの苗木を主に育てています。岐阜県郡上市白鳥の林木育種事業地で分けてもらった種子を苗畑に播種し、裸苗やそこからの実生を移植したコンテナ苗を2～3年かけて生産しています。裸苗の育苗作業では、草取りや床替えの作業が大変で、その話も面白いのですが、今回はスギ・ヒノキ以外で育てている樹種についてご紹介します。

そもそも、スギ・ヒノキ以外の樹種を育てている主な目的は、学内に植栽して樹木同定実習で使用するためです。現在、樹木同定実習で利用している植栽木の中には、県内の標高の高い場所や北部に行かないと見られない冷温帯性の樹種がいくつかあります。これらは30年ほど前に隣接する森林研究所の研究員により植栽されたり、アカデミー開学時に業者により植栽されたものです。しかし、冷温帯性樹種は種類が多いため、それらを十分にカバーできているとは言えません。さらなる学びの充実のために、学内ではまだ数が少ない／植えられていない樹種を中心に、ヤチダモやハリギリ、キハダ、シナノキ、コハウチワカエデ、チドリノキなどの苗を作っています。ヤチダモやハリギリは家具材としてもよく使われる樹種で、それぞれ、タモやセンの名前で材が流通しています。ハリギリの大きくなった個体を2年前に植栽したところ、今では樹高が1・5mを超えました。キハダは既に演習林に植栽されているのですが、大きくなり過ぎていて特徴的な幹肌を観察するのには良いのですが、葉は全く観察できない状況です。そこで果実を採取して種から苗を作り、学内に植栽しました。まだ樹高1mにも満たない小さな個体ばかりですが、葉の形や着き方を観察するのに役立っています。

岐阜県中津川市から長野県の木曽谷にかけての地域では、ヒノキ、サワラ、クロベ、アスナロ、コウヤマキの5種類の針葉樹を木曽五木と呼んでいます。これらの樹木は、江戸時代に森林資源が不足した際に伐採が禁じられ、保護されてきました。このように岐阜県とも馴染み深い樹木なのですが、学内にヒノキやアスナロ、コウヤマキはあったものの、クロベは小さな個体しか無く、サワラはありませんでした。4年ほど前に、サワラの苗を何本か植えたところ、現在では大きな個体が樹高4mを超え、今年から授業で利用できるようになりました。昨年、サワラやクロベから挿し穂を採取し、挿し木苗を作りました。発根した穂はそう多くなく、また苗畑に移植後も、成長の良い個体は少ないのですが、だんだん苗が育ちつつあります。



写真1
学内に植栽したイチイガシ

アカデミーのある辺りの植生帯は暖温帯で、極相種はシイ・カシ類になります。岐阜県に自生するカシ類にはアラカシやシラカシ、アカガシ、ツクバネガシ、ウラジロガシ、イチイガシがあります。しかし、学内で見ることができるのは、アラカシとシラカシ、ツクバネガシのみです。そこで、イチイガシとアカガシ、ウラジロガシの苗を作ることにしました。イチイガシに関しては、かつての卒業生が置いていった苗木を育てて移植した個体が樹高2mを超えました。アカガシも樹高1mほどに育っています。



写真2
苗畑で育苗中の紅葉が美しいハゼノキ

これまでに、他にも果実を食べることができるサルナシやオニグルミ、サンショウ、ザクロなどの苗木も植栽してきました。学内で育てているスギ・ヒノキ以外の樹種の苗木は、今はまだ小さいものが多いですが、着実に種類を増やしています。20～30年後に、その時代の学生たちの学びに貢献できるように、今後も生産を続けていくつもりです。

このところ国産漆に注目が集まっています。ウルシは中国原産のため、国内で栽培されている地域は限られていますが、岐阜県の飛騨地方でも栽培されています。そこからもらった種子をまいたところ、2年目にして漸く発芽してきました。まだ樹高10cm程度ですが、来年の成長が楽しみです。同じウルシ属にハゼノキがあります。ハゼノキは果実から木蝋を採取することができます。ヤマハゼやヤマウルシは県内に広く自生しているのですが、ハゼノキの自生地は限られています。何年か前からハゼノキの実生苗を作っています。今年ポットから畑に移植した個体はとても成長が良く、1年で1m近く伸びました。来年の春には地植えできそうです。いつかこれらの個体から、授業で漆や木蝋を採取できるようにしたいです。

●詳しい内容を知りたい方は　TEL（0575）35-2525　県立森林文化アカデミー　まで

木の香る
ぎふの施設
95

木造化

中津川市立坂本こども園

岐阜県中津川市茄子川841番地の1



施設全景

施設概要

事業年度	令和元年度
事業主体	中津川市
構造 延床面積	木造 1,299.77㎡
施設用途	幼保連携型認定こども園
木材使用量 使用樹種	236.80㎥（うち県産材使用量　189.57㎥） ヒノキ、スギ
全体事業費	328,320千円
助 成 額	22,083千円(木の香る快適な公共施設等整備事業)
設 計 者	株式会社宮本忠長建築設計事務所
施工業者	株式会社田口建設(建築主体) 石原電機工業株式会社(電気設備) 五十嵐工業株式会社(機械設備)
工　　期	平成31年2月25日～令和2年2月27日



絵本コーナー

施設の経緯

坂本こども園は、近年の保育ニーズに対応するため、幼児教育・保育の充実を図ること、また、課題である老朽化した既存の坂本幼稚園・坂本保育園の保育環境の整備を行うことを主な目的として建設しました。

園児たちが穏やかで落ち着いた雰囲気の中、一日を楽しく過ごせるように、園内の見通しが良い園舎の配置としました。また、南東に恵那山、西北に笠置山、北に御嶽山を一望できる、山々を借景とした景観に調和する園舎の外観としています。



遊戯室

ここに注目！！

構造材はもちろんのこと、外壁や内装、園児が利用する机やイス等、多くの部分に県産材を利用しています。

ぎふの木に囲まれた、とても温かみのある施設です。

利用者の様子

園児たちは、ぎふの木の温かくやわらかな雰囲気の中で、毎日のびのびと元気よく生活しています。

■問い合わせ先
中津川市教育委員会事務局
施設計画推進室・幼児教育課
TEL 0573-66-1111

コウヨウザン植栽の注意点

森林研究所●大洞 智宏

はじめに

本誌789号（2019年6月）で、早生樹として期待されるコウヨウザンについて紹介しました。その後、岐阜県各地の植栽木を継続的に調査していますので、今号では県内の生育状況と植栽時の注意点を紹介したいと思います。

気候条件に注意

岐阜県内においても、コウヨウザンは昔から寺社等に単木的に植栽されてきました。例えば、揖斐郡池田町の禅蔵寺の個体（図1）は、町の天然記念物に指定されています。また、旧高富町史（昭和55年発行）には御鉾神社にある個体について町内の特殊植物として紹介されています。過去に植栽されたコウヨウザンは、現在把握しているだけでも県内に10カ所以上あります。これらの植栽地は789号で紹介したコウヨウザンの生育に適した気候の地域とほぼ一致しました（図2）。



図1　禅蔵寺のコウヨウザン

立地条件に注意

では、木材資源としての利用を前提とした林としてはどのような成長をするのでしょうか。このことを検証するために、現在9カ所の植栽試験地を設定しています（図2）。このうち3年前に植栽を行った4カ所の樹高成長を比較すると、概ね順調に生育しているようですが、場所によって約1mの差がついていることがわかりました（図3）。このことは、スギやヒノキと同じように早生樹であっても立地条件によって成長が大きく異なることを示しており、植栽場所を慎重に選ぶ必要があります。

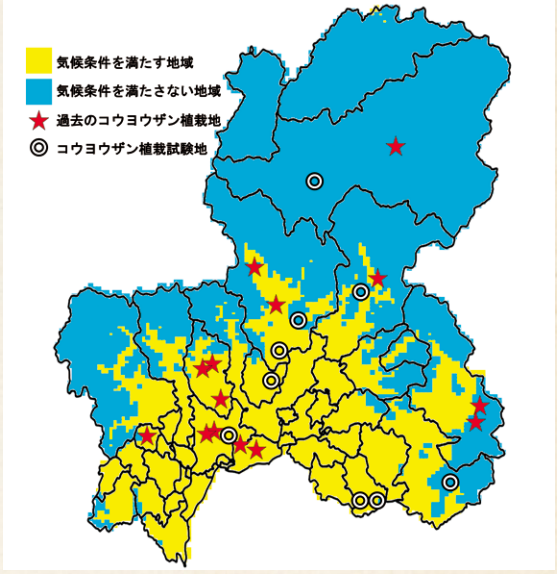


図2　コウヨウザン植栽地

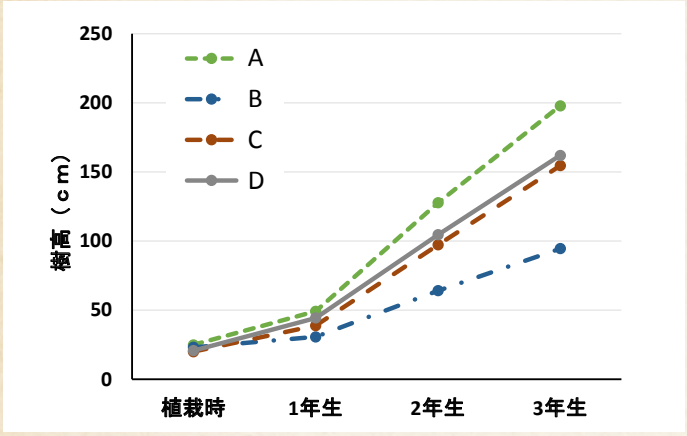


図3　3年間の樹高成長

獣害に注意

他県の植栽地ではノウサギによる食害が多く報告されています。岐阜県でも被害率が9割を超える調査地がありました。また、ヒノキと混植した調査地では、ヒノキの被害率が1割未満であったのに対してコウヨウザンでは6割を超える被害率でした（図4）。ノウサギはコウヨウザンを好んで食べる傾向があるため、植栽する場合、ツリーシェルターを設置するなど防除の手立てが必要になります。



図4　ノウサギによる被害

おわりに

植栽試験が始まったばかりで成長速度や耐雪性など解明すべき点は多いですが、コウヨウザンの特性を十分に生かすためには、植栽地選びや獣害対策をしっかり行う必要があると言えます。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-33-2585
森林研究所まで

下呂地域における林業普及活動

■下呂農林事務所　二階 勇二

下呂農林事務所管内は、岐阜県の中東部に位置する下呂市のエリアで、森林面積約78千ヘクタールのうち約7割に当たる約55千ヘクタールを民有林が占めています。人工林率は県平均を大きく上回る62％で、その約7割をヒノキが占めています。

地域の森林整備の担い手としては、2つの森林組合と13の林業事業体が稼働する中、79名の森林技術者が従事しています。

当地域では、林業事業体以外にも各地区に森林造成組合（森林所有者で組織する団体）が活動しています。

そのリーダー的存在の自伐林家が、自己所有林や地域の森林を自ら施業するなど、森林造成組合によって様々な活動が展開されています。

今回は、当管内におけるこれらの担い手を対象とした林業普及活動の取組みを紹介します。

主伐・再造林の推進

下呂農林事務所では、平成29年度から令和元年度にかけて、将来に渡り森林資源の循環利用を図るうえで、適切な伐採と再造林による齢級構成を平準化していく取組みとして「皆伐編」、「植栽編」、「低コスト施業技術」、「再造林の先進地視察」の各研修を実施してきました。

（詳細は、令和元年12月号（No.795号）の普及コーナーに掲載）

今年度は、主伐・再造林計画の作成に向け、補助事業を効果的に活用する知識の普及が必要なため、各林業事業体を対象とした研修会を開催しました。

研修は、冒頭に私ども林業普及指導員から、主伐・再造林に関する各事業（補助制度）の説明、主伐計画を含む森林経営計画を作成するうえでの留意点などを説明しました。

続いて、健全な山づくりをするための森林管理として、南ひだ森林組合が下呂市金山町地内で「林業成長産業化森林整備事業」として実施した枝虫被害林の主伐・再造林の取組み事例について説明いただきました。



▲研修における座学の様子

南ひだ森林組合では、高性能林業機械による車両系作業システムによる搬出間伐を行ってきましたが、今後、架線系集材事業の強化も図ったうえで、主伐・再造林に取り組みながら、循環型林業へ移行することとしています。

その取組みのもと、人里近くの主伐として、周囲に立木が無いことからタワーヤーダを休耕田に設置し、地面に穴を掘り、控索を設置するなどの苦労があったこと。架線を設置する時にドローンを使い索張の労力が軽減できたこと。主伐事業を行うときに事前の森林調査や作業場所の調査等を十分に行う必要があり、調査精度を上げないと精算で赤字になること。シカの多いところは獣害対策が重要なこと。また、補助事業を活用しない場合は、森林所有者と十分に検討する必要があること等の説明がありました。



▲タワーヤーダ設置状況



▲主伐地の状況

面積：1.80ha　　樹種：ヒノキ
林齢：50～96年生　　搬出材積：956.749㎥

今後、主伐地の継続的な確保と主伐経験の積み重ねによって、木材生産性の向上を図り、木材生産量の拡大に貢献されることを期待します。

研修参加者からは、地元へ「主伐・再造林の説明に当たり、単に補助率を説明するだけでなく、実際にどれくらいの経費がかかり、補助金交付見込み額など具体的な試算表で説明してほしい。」などの意見がありました。

地域の林業事業体には、平成29年度

から継続実施してきた研修内容を参考として、今後、下呂地域に適した主伐・再造林に取り組まれることを期待しています。

リスクを考慮した作業道開設

効率的な木材生産を進めるためには、適切な路網整備が不可欠です。

当管内では、昨年度、岐阜県森林研究所職員に講師をお願いし、山地災害リスク管理を主な内容とした作業道開設研修を実施しました。（詳細は、令和元年12月号（№795号）の普及コーナーに掲載）

今年度は、各林業事業体が効率的で壊れにくい作業道を計画する技術の普及が必要と考え、より実践的な研修会を実施しましたので、その概要について紹介します。

なお、講師は、私ども林業普及指導員に加え、昨年度に引き続き県森林研究所職員にご協力いただきました。

研修は、県森林研究所から森林作業道における構造物設置個所や、作業道災害リスク評価参考図等について講義をいただいた後に、林業普及指導員が机上演習現場の森林作業道損壊事例について説明し、その後に演習を実施しました。



▲演習風景（標準断面の検討）

森林経営管理制度等への取組み

昨年4月1日から、森林経営管理法、森林環境譲与税の活用事業が始まりました。下呂市では、これらの制度を活用して地域の森林整備を推進していく必要があることから森林組合等の地域関係者で新しい組織の設立を検討しているところです。

現行の下呂市森林集約化協議会から新たな業務（経営管理意向調査・経営管理権集積計画等）を担う組織として、「下呂市もりづくりセンター（仮称）」の設立に向けた助言・指導を行っています。設立後の詳しい活動内容等については、今後お伝えしていきます。

終わりに

新型コロナウイルス感染症の影響と下呂地域に甚大な被害を与えた7月豪雨によって、原木価格が下落し林業生産活動が停滞しましたが、管内の森林組合等、林業事業体の皆さんが奮起一番、木材生産、森林整備に取り組んでいるところです。

今後、県域全体での旺盛な木材需要に応えるため、木材生産量を増加できるよう林業普及活動を通じて、地域関係者のみなさんの林業活動の支援に取り組んでいきます。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0576－52－3111
下呂農林事務所まで

スマート林業通信 8

林業デジタル化推進研修会を開催



12月16日～18日に林業関係者を対象に、林業デジタル化の推進に有効な森林3次元計測システム（地上レーザ計測器OWL）の操作研修会を開催しました。

研修会はOWLの概要と事前に森林文化アカデミーで試験して得た注意事項等を説明した後、反射テープで杭などを設定したプロットで現地計測の実習を行いました。そのデータを基にパソコンで解析ソフトの操作説明を行いました。

OWL及び解析ソフトの使い方は簡単で、赤外線レーザを用いて立木の胸高直径、樹高、位置等を計測し、立木位置図や3次元データを作成することができます。

OWLで作成される3次元データはまるで林内にいるような画像、動画を見ることができ、森林調査はもちろんのこと、森林所有者に「あなたの山はこうなっています」と説明する効果的なツールになると思います。

参加者からは境界木等にマーキングする付属の反射テープが高額なので、百円均一の商品やホームセンターで販売されている安価な反射テープでもOWLは認識するのか、森林文化アカデミーで試験をお願いしたい等の意見がありました。

今後は各農林事務所で研修会を開催していただき、林業へデジタル化の浸透を図りたいと考えています。



OWL現地計測



OWL解析画像

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575－35－2535
森林文化アカデミー
スマート林業推進係まで

国有林の現場から 52

こんなところにも国有林2

令和二年十月号で金華山を紹介しましたが、郡上市役所の裏にある東殿山（とうどやま　標高　五七八ｍ）も国有林です。郡上市といえば日本三大盆踊りに数えられる、郡上おどりが有名です。郡上おどりは、寛永年間（一六〇〇年頃）郡上藩主であった遠藤慶隆が住民の融和を図るため奨励したものです。



▲郡上八幡城から東殿山国有林

この山の歴史は古く前期室町時代、応永年間　東益之（古今伝授をした東常縁の父）が犬啼山城を築いたとされています。その後東常慶（東常縁の孫）は篠脇城主（郡上市大和町）でしたが、越前の朝倉氏の侵攻を受け大きな損害を受けたため赤谷山城（東殿山城）を築き居城を移したとされています。東氏滅亡以降は郡上藩の藩林として藩主の管理下に置かれました。

一六五二年城下は大火にみまわれ城下町を焼き尽くしました。城下町再建のため東殿山も用材となるものはすべて切り尽くされたようです。

大正八年にも大火があり、その際にも復旧のため大正九年四月から九月までに約三〇〇〇本が伐採されたという資料が残っています。

藩林として保ってきた東殿山も幕府の大政奉還等の時、慈恩寺の寺領とされましたが、明治初年に一部を返上し御料林となりました。昭和二十二年林政統一により、国有林となり、現在は林野庁岐阜森林管理署が管理しています。

東殿山国有林には、４つの登山コースがありますが、郡上市役所隣にある愛宕公園からのルートが一般的です。愛宕神社境内の円通閣裏手からつづら折りの歩道を登るコースです。標高四〇〇メートル付近から国有林に入ります。樹齢二〇〇年以上の天然ヒノキが大半をうめ、コウヤマキ、ヒメコマツなど岩礁山特有の針葉樹混成の天然林になります。また低木層も日本海型のマンサク、ヒメアオイ、ユズリハ、太平洋型のタラヨウ、サカキ、シキミなどがあり太平洋型、日本海型植物の接点となっています。湿潤で急斜面のためシダ類も豊富で専門の研究者たちはまだ発見されていない新種が発見できるかもと期待しているようです。三の曲輪跡、二の曲輪跡を経て一の曲輪跡、すなわち赤谷山城跡に到着します。石垣の跡が当時を彷彿とさせます。ここからさらに山頂を目指します。山頂では、八幡城が望め天候によっては遠く白山まで見ることができます。山頂から四阿まではなだらかな尾根を歩きます。途中ツルシキミ、ヤマザクラの七本立ちなどを見ながら四阿まで。四阿からは八幡町の町並みが望めます。



▲天然ヒノキの大木



▲ツルシキミの花と実

このほかにも乙姫―四阿コース、赤谷コースがあります。郡上市役所西側からの赤谷コース入り口は岸壁にはしごとロープが設置してあり、健脚コースと呼んでいます。

追伸、四阿にはアンケートボックスを設置しております。東殿山へ登られたなら今後の参考にさせていただきたいので是非一言アンケートにもご協力下さい。

（岐阜森林管理署）

岐阜県の名桜樹について　～生産と無償配付～

岐阜県では、「淡墨桜」、「臥龍桜」、「荘川桜」を県の「名桜樹」として、白鳥林木育種事業地において平成6年度から、接ぎ木による苗木の生産を開始しました。平成10年頃からは、市町村、自治会、区、学校 等が行う、公共施設、公園、温泉街、記念植樹、観光施設、村道 等での植樹を対象に無償配付を行っています。昨年度は淡墨桜330本、臥龍桜345本、荘川桜176本の計851本の配付を行いました。(なお、県の木「イチイ」も同じく無償配付しており、昨年度は40本を希望市町村等に配付しました) 毎年、8月頃に市町村に無償配付について照会を行っています。詳しくは県庁森林整備課整備係 tel 058(272)1111 内線(3194)までお尋ねください。



道路の左側が名桜樹生産地



名桜樹の生産状況

淡墨桜：本巣市の根尾谷・淡墨公園にある桜。樹齢1500年以上の古木で、淡いピンクのつぼみが、満開になれば白に、そして散り際には淡い墨色になることから淡墨桜と名付けられたと言われている。国の天然記念物(「薄墨桜」と標記もあるがこの記事では「淡墨桜」とした)

臥龍桜：高山市一宮町臥龍公園にある桜。樹齢1100年以上の古木で、龍が地に臥しているように見えることからその名が付いた。国の天然記念物

荘川桜：高山市荘川町中野の御母衣ダム湖岸にある桜。樹齢450年余と推定され、御母衣ダム建設時に水没するところを現在地に移植された。県指定天然記念物。

【山林協会　瀬上】

森林・林業関係イベントカレンダー(2月)

林業者向け

開催日	行事名等	内　容　等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場　所 申込(問合せ)先／TEL
2月16日㈫～ 2月19日㈮	フォークリフト運転技能講習 【受講資格】 自動車普通運転免許所持者	●講習時間　1日目　学科　8:20～16:30 学科試験　16:30～17:30 2～4日目　実技・試験　8:00～17:30 ●申　込：開催日の20日前まで ●受講料：32,450円(本代含む)(振込み) ●定　員：20名(定員になり次第締め切ります。)	学科　伊自良中央公民館(山県市大門912-1) 実技　ぎふ農協旧伊自良共選場(山県市洞田127-5) 林材業労災防止協会　岐阜県支部 電話　058-275-0192　FAX　058-201-1195

COLUMN

コラム

令和2年は、特に新型コロナ感染拡大の影響により『自粛』という日々が続きました。

プライベートでは、週に1回やっていたソフトバレーが令和2年10月から令和3年3月までは中断となり、身体を動かす機会が減ってしまいました。

さらに、『月1回から2回の国内旅行』『2か月に1回の飲み会』は『自粛』という名のもとに楽しみが大幅に減少しましたが、生活習慣の変化によって、『読書』の時間が大幅に増加しました。

公私ともに、『変化に対応していく必要がある』と感じさせられた1年となりました。

令和3年はさらなる変化があると感じているので、公私ともに『変化』に対応できるよう努力をしていきたいと思っています。

「森林のたより」編集委員　下野 俊彦

イベント情報　3月1日発行

連載
- 山の歳時記 (187)
- 山のおじゃまむし (356)

地域の人

清流と森と親しむ
- 森林と人を活かす知恵 (98)

木と親しむ
- 岐阜県の公共木造建築 (96)

清流の国ぎふ森林・環境税

森林・林業技術
- 研究・普及コーナー

市況情報　その他

3月号予定



木材市況　県森連　岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位：円（1㎥当たり）

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	備考
第1749回 岐阜共販所 1月12日	すぎ	3 m	16～18cm	12,000	—	単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格
		4 m	16～18cm	11,000	—	
			20～22cm	12,800	—	
			24～28cm	11,600	17,000	
			30cm以上	10,200	20,600	
		6 m	16～18cm	—	—	
	ひのき	3 m	16～18cm	17,000	—	
			20cm以上	14,000	—	
		4 m	16～22cm	17,000	—	
			24～28cm	13,500	—	
			30cm以上	15,000	—	
		6 m	16～18cm	—	—	
第1325回 飛騨共販所 12月23日	すぎ	3 m	16～22cm	11,000	—	
		4 m	24～28cm	11,000	—	
			30cm以上	10,000	—	
	ひのき	3 m	16～18cm	16,000	—	
		4 m	20～22cm	15,000	—	
			24～28cm	15,000	19,000	
			30cm以上	15,000	42,600	
		6 m	16～20cm	20,000	—	
	まつ	4 m	24～28cm	8,000	—	
			30cm以上	9,000	18,000	
	ひめこ	4 m	24～28cm	12,000	—	
			30cm以上	13,000	24,000	
		5 m	30cm以上	20,000	28,000	
	くり	4 m	24cm以上	15,000	—	
第1658回 東濃共販所 1月14日	すぎ	3 m	16～22cm	11,900	—	
		4 m	24～28cm	11,600	—	
			30cm以上元	13,000	20,000	
	ひのき	3 m	16～22cm	16,500	30,000	
			24～28cm	13,000	31,000	
			30cm以上元	16,500	31,000	
		4 m	13cm以下	9,000	—	
			24～28cm	13,600	28,000	
			30cm以上元	17,500	65,000	
		6 m	18～22cm	22,000	—	
	まつ	4 m	22～28cm梁	5,000	—	
			30cm以上元	6,000	—	



木材市場

【商況】

今後の降雪による出材減を不安視し応札は活発。降雪期の最中において、活気のある市となった。スギ4m元木良材には応札旺盛。スギ3m並材は保合。4m並材は需要が高く強保合。ヒノキ4m元木良材には応札旺盛。ヒノキ3m、4m柱、土台取りに復調の兆しあり。価格は上向き気配があり強保合。合板向けヒノキは保合。スギは需要大。価格も含めて強含み。製紙向けパルプ材、発電向け未利用材ともに需要が高く、各工場受入は順調。（岐阜）

スギ3･4m並材は保合。ヒノキは地元の買い方も多く全般に買い気が見られ並材、良材が完売。特にヒノキ元木2m、ヒノキ中目4m応札好調。ヒメコ5･6m元木良材人気が集まり応札旺盛。広葉樹は出材が少ないが全般に人気が集まり応札旺盛で完売。（飛騨）

全般的にヒノキ･スギとも並材（16cm～22cm）は、応札旺盛にて強保合。ヒノキ元木、良材2m･3m･4m（高齢材及び枝打材など（特殊材））には応札旺盛にて強保合。スギ元木良材には応札旺盛強保合。ヒノキ並材は3m･4m（16～22cm）は、需要があり価格は上向き気配にて強保合。スギ並材は3m･4m（16～28cm）状況が徐々に緩和し強保合。（東濃）

製品卸売標準価格（12月期）

（単位：円）

樹種	用途	寸法(mm) 長	巾	高	等級	m³当り価格	(本(枚)単価)	前月比較
スギ	柱	3000	105	105	1等	55,000	(1,819)	→
	間柱	3000	105	30	1等	55,000	(520)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	65,000	(2,867)	→
	柱	3000	120	120	特等	60,000	(2,592)	→
		3000	120	120	(東濃桧)特等	65,000	(2,808)	→
		6000	120	120	特等	120,000	(10,368)	→
Wウッド 集成材	柱	3000	105	105	国産5層	59,000	(1,920)	→
		3000	120	120	国産5層	59,000	(2,520)	→

※日刊木材新聞調べ（名古屋標準相場　全てKD材）

外材市況（12月期）

1㎥当り（価格単価：100円）

樹種	規格	価格	樹種	規格	価格
米松	SSタイプ	306	米栂	ヘム(アラスカ産)	292
	コースト(目荒)	317	米ひば	ポール	310

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場（径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場）

ZEH（ゼッチ）

木材用語一口メモ

Net Zero Energy House（ネット･ゼロ･エネルギー･ハウス）の略。住宅の断熱性･省エネ性能を上げるとともに、太陽光発電等によってエネルギーを創り、年間に消費するエネルギー量の収支をゼロとする住宅。